

原稿用紙の使い方

一年

岐阜太郎

みなさん、原稿用紙を前にしているいると

迷ったことはありませんか。むしろかしい決ま

りがいくつもあって、ただでさえ書きづらい

原稿がなおのこと書きたくないものになって

いたりはしないでしょいか。ここでは、普通

に行われている原稿用紙の使い方について、

説明します。なお、これは、出版業界独自の

ものではなく、社会一般に用いられているも

のとお考えください。

それでは、ご説明しましょう。

この文章には、「禁則処理」ということが

なされています。行頭に句読点が位置してし

まう場合には、これを前行末に押し込めたり、

踊り字（「々」「・」「ゞ」「など」）が行の先頭に

きてしまふ場合は、「山々」と書かずに「山

山」と書いたりするのがこれに当たります。

とところで、固有名詞に含まれる「々」の字

はどうすればよいのでしよう。これは、「佐

の	す	じ		に	し	と	こ	っ	差		ヤ	位	合	ほ	す	促		野	で	々
よ	か	る	か	配	て	い	と	し	し		ッ	置	で	っ	°	音		村	す	木
う	ら	括	ぎ	慮	、	う	で	ん	支		ポ	を	も	し	。	に		°	さ	
に	、	弧	括	す	な	欠	す	「	え		「	取	、	し	「	禁	に	「	ん	
書	前	が	弧	る	る	点	°	の	な		の	っ	っ	ん	シ	則	な	野	」	
き	の	行	の	こ	る	が	た	「	い		「	て	つ	」	ヤ	処	こ	々	」	
ま	行	頭	位	と	べ	あ	だ	」	こ		」	い	な	」	、	理	と	村	」	
ま	末	に	置	も	く	る	し	も	と		き	語	な	」	で	は	」	」	」	
す	に	来	に	大	そ	あ	、	、	で		ま	が	語	小	誤	あ	」	」	」	
°	押	る	も	切	の	る	こ	行	、		す	行	語	さ	解	り	」	」	」	
	し	こ	気	な	よ	、	れ	頭	、		°	を	が	れ	さ	ま	」	」	」	
	込	と	を	作	う	読	ら	で	、		従	ま	行	て	れ	せ	」	」	」	
	め	は	つ	法	な	み	は	構	読		っ	す	を	い	て	い	」	」	」	
	て	禁	け	と	位	手	「	わ	み		ぱ	、	ま	る	る	る	」	」	」	
	、	則	ま	心	置	の	読	な	づ		つ	一	た	こ	、	る	」	」	」	
	「	に	し	得	に	こ	み	い	ら		せ	文	い	と	、	を	」	」	」	
	禁	当	よ	ま	来	と	ぶ	と	い		い	字	で	と	、	ま	」	」	」	
	則	たり	う	し	な	を	ら	い	い		ほ	ず	い	っ	、	た	」	」	」	
	処	り	°	よ	い	意	い	う	う		ほ	つ	る	ぱ	、	た	」	」	」	
	理	ま	閉	う	よ	識	」	う	ほ		ほ	つ	こ	つ	、	た	」	」	」	
	「	ま	閉	う	う		」	う	ほ		ほ	つ	と	つ	、	た	」	」	」	
	」	ま	閉	う	う		」	う	ほ		ほ	つ	と	つ	、	た	」	」	」	

また、日本語に元々なかつた「？」「や」「！」の扱いですが、これらを用いた場合は、その後を一文空白にしておくというルールがありま す。分かりますか？と、このように書 くのです。読みやすさを考えてのことのように です。ただし、あとにかぎ括弧が来る場合ま でも空白を求めるのは行き過ぎというもので、 「分かりますか？」 「 」などとは書きません。 「分かりますか？」 「 」が正しい表記です。

このほか、行末の長音符号「ー」の扱いに 見るように、決まりそのものにゆれがある場 合など、いちいち紹介すべきかと思いますが、 表記法にゆれがあることそのものが国語の現 状を表しているところとご理解いただくのが正しい と考えます。

そもそも日本には文字はなかつたこと、ま た、古典の文章には句読点もなかつたことな どを考えばお分かりになるように、国語の きまりは変化（進化とは限らない）して現在

に至るものです。より読みやすくしたいとい
う思いとより効果的に表現したいという思い
とは、目指すものの違いゆえに、当然、一致
することはないと思われます。その中でスタ
ンダードなものを見つけるというのは、原稿
用紙の話にとどまるものではありませぬ。世
の中の流れに敏感でありたいと思うところで
すね。